

学長室だより

2020.2.18 NO.22

古代に淵源、音楽でも発信

開学からの歴史が浅い本学が、県内外から注目をいただくようになったきっかけの一つは、就職率の高さだった。だが「就職」といっても、必ずしも企業に入社するだけではない。自ら起業する者もいれば、農業に従事したり、音楽を生業にしたりするアーティストもいる。

リベラルアーツを本旨とする本学のカリキュラムでは、「音楽」と「体育」も重視している。古代のリベラルアーツ教育では、音楽は神々との宗教的・霊的な交わりを、体育は強い肉体の完成を可能にしていた。

卒業生に塚本崇瀬（たかせ）君というゴスペル（福音霊歌）歌手がいる。ロックミュージックに傾倒し、バンド活動に明け暮れた。本学の音楽の授業では音楽史や音楽理論だけでなく、演奏実技にも取り組める。塚本君は授業でゴスペルに触れたことがきっかけでその深遠さに魅了された。卒業後は米国ニューヨークで音楽修行に励み、本場のゴスペルを学んだ。今は東京を活動拠点に個人ベースで活動をしているが、国内外問わず、多くのアーティストと共演しているそうだ。

塚本君はいま、ゴスペルの魅力を伝えようと、地域貢献活動にも積極的だ。秋田に頻繁に戻ってきては県内各地でゴスペル教室を開催。三種町では「三種ゴスペル」として、年齢を問わず、歌に自信のない人も交え、新しい自分に出会うことをモットーに歌唱指導をしている。三種ゴスペルは秋田ノーザンハピネットの試合前にクリスマスソングを歌う機会を得た。4千人を超える人前でパフォーマンスした三種ゴスペルの参加者はどれほどの気分を味わったのだろう。

塚本君は一昨年の秋には自作曲「軽トラでゆこう」を発表した。台風19号が日本列島を直撃し、大きな被害をもたらした昨年10月、藤里町の住職新川泰道さんを中心とする「軽トラでゆこうプロジェクト」に参加した。被災地への支援をするために、チャリティーライブや募金活動を続け、今年1月には一定額が集まり、中古の軽トラックを購入し、車体整備をして宮城県丸森町に寄付した。

本学と音楽との結びつきは学生だけでない。元常務理事の佐々木昌良さん（68）とその3人の仲間は「カントリープレーボーイ（カンプレ）45」という合唱グループを結成した。「出前歌声喫茶」と名付けて、老人ホームやライブハウスなどで独自の慰問や訪問コンサートなどを行っているが、時折この行事にも、本学学生のサークルとも共演している。

本学はその国際教養教育がギリシャ・ローマ時代のリベラルアーツに淵源（えんげん）を持つことに思いを巡らしつつ、それが現代でどのように姿を変え、自己主張していけるかを自問している。将来像は未知数だが、学生たちが秋田発国際教養教育の一つの在り方として発信していることを学長として、ひそかに楽しみ、そして誇りにも思っている。

注）朝日新聞秋田版「あきたを語ろう」からの転載です。以下 URL からもご覧いただけます。
<http://www.asahi.com/area/akita/articles/MTW20200218051550001.html>



鈴木 典比古